中村陽子展 2016/03/21-4/02 steps gallery Criticism by MIYATA Tetsuya Vol.131



中村陽子ステップスギャラリー初個展である。中村の活動 歴とこれまでの作品に共通する事項については会期中に 会場内で配布されたリーフレットで触れたので繰り返さ ない。ここでは展覧会評に集中することにしよう。

今回の展覧会は、中村の本領が発揮された。中村が自らを 徹底的に追い込み、これまでにないほどまでの集中力と全 身全力を駆使した作品制作が実を結んだことになるのだ が、その良さを引き出したのが吉岡による展示である。

吉岡はまず画廊入り口に横長の中品を備え、画廊に入ると 左奥に同色の大型作品が並べたことが確認できる。日本の 美術館では日本画の主題を追う風潮が残っているので、逆 時計回りに導線が引かれることが多々ある。

それに則って画廊に入って右に回ると、入り口と同色の大型の作品が一点展示され、外から見えた二点と向き合っていることになる。そして入り口からみて右側、メインの壁面を飾るのはスクエアの大型作品四点の二段掛けだ。

この四点を見ることで、中村の全ての作品が全く異なる心持で制作されていることが明らかとなる。

背中側に目を向けると、 今度は横長の作品が地平 線を支配するように展示されている。画廊の中央 に立って視線をさ迷わして ると中村の筆致は画面を 飛び越えて、天井にも響き渡り、自己の全 身が包み込まれるよう に錯覚する。

絵画を成立させるのは、 描く側の意図だけでは なく、描く者を含む見る 者の意思なのだ。

これまで何もなかった 場所、闇の中から生命を 見出し、命を吹き込む作 業ほど尊いものはない。









			300	7120
		業を通り		_
ARMANIE	田木井京			
Diore	<b>B</b> 0.00 A	Steps		
	Neso.	理論だみもF		_
$\overline{}$	C TOTAL			
- 12	NX.		428	Apple Store
BRATE!		131140	_	Section 1
交票点 "	24			KK.